



工場見学力 ショウワノート 高岡新工場 富山県高岡市

「ジャポニカ学習帳」はこうして作られていた！

工場見学といえば、かつては学校が行う社会科見学の要素が強かったが、近年は新たな観光コンテンツとして注目されている。「ジャポニカ学習帳」を製造するショウワノート株式会社でも、昨年からは工場見学をスタートさせた。こうした産業観光は、企業や製品の認知度アップだけでなく、地域活性化という点でも大きな可能性を秘めている。

日本人で「ジャポニカ学習帳」を知らない、という人はまずいないのではないだろうか。製造するのは、富山県高岡市に本社を置くショウワノート株式会社。その製造過程を見ることが出来る工場見学ツアーが、2018年（平成30）6月から始まり、人気となっている。この企画は、創業70周年を記念して昨年5月に新工場が完成したことがきっかけだが、狙いはそれだ

けではない。

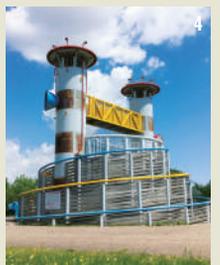
「おかげさまでジャポニカ学習帳のブランド認知度は高いのですが、メーカーがショウワノートであり、富山県高岡市に本社があることは、実はあまり知られていません」と、語るのは同社の事業戦略室室長の橋邊吉成（はしへ・よしなり）さんだ。

そこで、工場見学を機に企業認知を拡大し、さらに観光面でも富山県に貢献したいと考えた。現在は、県内の小中学生の遠足や社会科見学をはじめ、北陸地区の小中学生がいるファミリーやシニア層、帰省や旅行で来県する一般客など来訪者は幅広い。さらにショウワノートの顧客企業、行政や商工会議所からも視察に来る。その数は今年5月17日時点で3335人だが、さらに増加中だ。

見学の目玉でもあるジャポニカ学習帳の製造ラインでは、ノートの中身となる原紙の巻きグ



3 ノートのもとになる「原紙」はロール紙と板紙の2種類がある。ロール紙は直径1m27cm、重さ700kgあり、これ一巻きでノート7,200冊ができる。製造時には1時間に1本が消費されるという。4 工場の隣にある「高岡おとぎの森公園」には、「ドラえもん」の作中に登場する空き地が再現され、アニメに出てくる登場人物の像が設置されている。



セを伸ばす作業、印刷作業、表紙との合体作業、裁断作業、ミシンでの二重かがり縫いという縫製作業などを見学できる。この一連の工程を行う「全自動糸綴じ製本機が一番の見どころ」だという。

「タイムトンネル」と呼ばれるコーナーも見どころの一つ。壁や天井に、新旧合わせて611枚の学習帳の表紙が展示されており、「ローアングルから撮ると奥行き感のあるいい写真になります」と橋邊さん。インスタ映えるスポットとして大人気なのだとか。

限定商品などを扱うファクトリーショップも充実のラインアップだ。復刻版のジャポニカ学習帳、クリアファイル、ピンバ

ツジのほか、高岡市出身の漫画家、藤子・F・不二雄氏の代表作『ドラえもん』関連の製品も並ぶ。なお、ショップの利用は、工場見学者でなくても、同社の産業観光課に申し込めば購入可能な時間帯を教えてくれる。

「このツアーを地元高岡市の認知度向上にもつなげたい」と語る橋邊さん。ショウワノートでは、工場見学を軸として、ワークショップの開催、付加価値の高いオリジナルの限定商品などを企画し、確固としたビジネスモデルを展開することで、産業観光という分野で地域に貢献したいというビジョンがある。

今後の内容の充実と発展にますます期待したくなる工場見学である。（鈴木正幸）

1 歴代の表紙がずらりと並ぶタイムトンネル。ショウワノートの製品は、すべてこの高岡工場で製造されている。
2 花びらのように見える「ハナカマキリ」や世界で初めて撮影に成功したものとされた「テングアゲハ」など珍しいものもある。表紙写真は1978年の「世界特写シリーズ」以来、昆虫植物写真家の山口進氏がすべて撮影している。